

入院から開始し外来で

# トルバプタンOD錠「ニプロ」を 継続服用される患者さんへ

毎日体重を測りましょう。その結果を本冊子の体重記録表に記入し、  
来院時にお持ちください。



肝硬変  
編

ニプロ株式会社

# 外来でトルバプタンOD錠「ニプロ」 を継続服用される患者さんへ



このお薬は、体にたまった余分な水分を排泄することで、むくみを取り除くお薬です。

**次のようなことに注意してください。**

- 1 このお薬を服用すると、尿量が増えて、のどが渇くことがよくあります。そのような場合には、水分を補給してください。詳しくは担当医師にご相談ください。
- 2 医師の指導に従い、毎日決められた時間に体重を測定することが大切です。



**重要** お薬は決められたとおりに服用してください。



ご自身の判断で、お薬の量を変えたり、飲むのを中止したりしないでください。中止してしまった場合は服用を再開せず、必ず医師に相談してください。飲み忘れた場合も、同様に医師に相談してください。

## 医師の診察が必要な症状があります！

次のような症状がある場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

### 脱水症状が疑われるとき

- のどが渇き、水を飲んでも良くならない
- 皮膚・唇の乾きや口の中の渇きが急に目立ってきた
- 急激に体重が減った

### 症状の悪化が疑われるとき

- 体重が短期間で急激に増加した
- 排尿回数や尿量が急に減り、お腹が張ってきた
- 腹部膨満感など腹水に伴う症状が悪化した
- むくみが強くなった
- めまい、立ちくらみがおこった



### 血清ナトリウム濃度が急激に上昇することによる障害\*が疑われるとき

- 手足のまひ
- けいれん
- 発声が不明瞭になる
- 意識がなくなる、意識が乱れる
- 飲み込みにくい

\*浸透圧性脱髄症候群

(しんとうあつせいだつすいしょうこうぐん)



### 肝性脳症が疑われるとき

- 肝性脳症の症状\*\*があらわれた

\*\*集中力がなくなった、昼間に眠く夜に眠れない、計算に弱くなった、場所がわからなくなる、イライラする、気分が不安定



ここにあげたこと以外にも、お薬を飲み始めて体に異常を感じたら、速やかに医師の診察を受けてください。

## 消化管出血が疑われるとき

- 血を吐いた
- 便に血が混じていた
- 黒い便が出た
- 急に血圧が下がった



## 肝機能の障害が疑われるとき

- 皮膚や白目が黄色くなった
- 強い疲労感を感じた
- 食欲が低下した
- 以上の症状がもともとある場合で、  
これらが急に強くなった



## トルバプタンOD錠「ニプロ」を飲むときの 注意点を守りましょう。

- グレープフルーツジュースと一緒に飲まないでください。このお薬の作用が強くなることがあります。

### このお薬には併用を注意すべきお薬があります。

- 他のお薬を服用している場合や、新たなお薬を服用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

### めまい、立ちくらみに注意してください。

- めまいなどがあらわれることがあるため、転倒に注意してください。また、高所作業、車の運転など危険を伴う機械を操作する際には十分注意してください。

毎日決められた時間に体重を記録しましょう。

毎日

時測定

服用日			体重
①	月	日( )	kg
②	月	日( )	kg
③	月	日( )	kg
④	月	日( )	kg
⑤	月	日( )	kg
⑥	月	日( )	kg
⑦	月	日( )	kg
⑧	月	日( )	kg
⑨	月	日( )	kg
⑩	月	日( )	kg
⑪	月	日( )	kg
⑫	月	日( )	kg
⑬	月	日( )	kg
⑭	月	日( )	kg

毎日決められた時間に体重を記録しましょう。

毎日

時測定

服用日

体重

15	月	日( )	kg
16	月	日( )	kg
17	月	日( )	kg
18	月	日( )	kg
19	月	日( )	kg
20	月	日( )	kg
21	月	日( )	kg
22	月	日( )	kg
23	月	日( )	kg
24	月	日( )	kg
25	月	日( )	kg
26	月	日( )	kg
27	月	日( )	kg
28	月	日( )	kg

# ご家族(介護者)の方へ

以下の注意事項を守っていただくため、患者さんがご高齢の場合など、必要に応じてご家族(介護者)の方の介助をお願いいたします。

- 1 のどが渴いたら、水分を補給することを心掛けてください。詳しくは担当医師にご相談ください。
- 2 毎日の体重測定は、ご家族(介護者)の方も一緒にご確認ください。
- 3 体重が短期間で急激に増加した、あるいは減少した場合は、医師の診察を受けるようにしてください。
- 4 いつもより飲水量が目立って増加した、皮膚や唇・口の中の乾燥が目立つ、むくみが強い、呼吸が苦しそう、めまいや立ちくらみがあるなどの症状に気付かれた場合は、医師の診察を受けるようにしてください。
- 5 医師より塩分制限などの食事管理の指導があった場合は、食事管理にご協力をお願いします。詳しくは担当医師にご相談ください。
- 6 強い倦怠感が出た、吐き気を感じた、食欲が低下した、皮膚や白目が黄色くなった、尿が茶褐色になったなどに気付かれた場合は、医師の診察を受けるようにしてください。

